

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	建築設計実習 1
<b>科目基礎情報</b>				
開設学科	建築学科	コース名		開設期 前期
対象年次	2年次	科目区分	選択	時間数 60時間
単位数	2単位	授業形態	実習	
教科書/教材	第3版 コンパクト建築設計資料集成 丸善出版			
<b>担当教員情報</b>				
担当教員	小田島佑、佐藤光則	実務経験の有無・職種	有・建築設計	
<b>学習目的</b>				
<p>複合用途の建築物を中心に設計を行う中で、都市、周辺地域との関わり方や景観形成などの外的要因からアプローチする考え方、建築物内の他用途間での関係性や各々の必要な機能、それに応じて必要となる広さを分析し、適材適所の配置計画を行う内的要因からアプローチする考え方、の双方の手法をもとに効率的かつ柔軟に社会の変化に対応できる建築が設計できるようになることを学習目的とする。建築設計実習1では、スタディ模型の作成やグループエスキスを通し、基本設計における実務の流れを理解しながら設計案を作成し、ポートフォリオの一部となる作品を完成できるようにすることを学習目的とする。</p>				
<b>到達目標</b>				
<p>次の4点を到達目標とする。</p> <p>①事例紹介等により都市の構成、都市施設の構造や用途を理解する。</p> <p>②平面、断面のスケッチをもとにスタディ模型を作成し検討することの重要性を理解する。</p> <p>③グループ作業の際、他者の意見に耳を傾け、積極的に意見し、アイデアを更に膨らませることができる。</p> <p>④図面や模型を作成し、設計案を発表することができる。</p>				
<b>教育方法等</b>				
授業概要	<p>講義と実習を中心に授業を進め、理解度を深める。建築設計の手法を知識と五感を使ったものづくりを原点に、実務につながる実習を展開する。</p> <p>また、住宅建築など、過去に学んできた知識を発展させ、多用途な建築の設計に取り組むことで設計の仕事の流れを修得する。</p> <p>中間提出や発表会での教員による評価をもとに、理解の到達度を確認する。</p>			
注意点	<p>毎回、製図道具一式、教科書、ロールレーシングペーパー(A3)を必ず持参すること。授業時数の4分の3以上出席しない者は単位を認定しない。日本工学院 授業心得(学生用)を守ること。本講義で、設計を一筆書きのように、まとめることも修得すること。</p>			
評価方法	種別	割合	備 考	
	レポート	30%	課題提出物の内容、進捗状況で評価する。	
	成果発表 (口頭・実技)	60%	15回目に行う発表の内容を総合的に評価する。	
	平常点	10%	授業態度によって評価する。	
<b>授業計画(1回~15回)</b>				
回	授業内容	各回の到達目標		
1回	ガイダンス	都市施設のイメージチェック、都市の構成と建築の用途が理解できる。		
2回	設計のはじまり	住宅設計における図面表現等を理解できる。		
3回	課題1(複合用途) ①	敷地、建物用途、イメージ、モジュールをまとめることができる。		
4回	課題1(複合用途) ②	平面、断面のスケッチを通して設計するものの規模を理解できる。		
5回	課題1(複合用途) ③	前回スケッチを基に図面、スタディ模型の作成ができる。		
6回	課題1(複合用途) ④	スケッチを基に図面、スタディ模型の作成ができる。		
7回	課題1(複合用途) ⑤	グループ内で発表を行い、新たなアイデアを見つけ出すことができる。		
8回	課題2(複合用途) ①	敷地、建物用途、イメージ、モジュールをまとめることができる。		
9回	課題2(複合用途) ②	平面、断面のスケッチを通して設計するものの規模を理解できる。		
10回	課題2(複合用途) ③	前回スケッチを基に図面、スタディ模型の作成ができる。		
11回	課題2(複合用途) ④	スケッチを基に図面、スタディ模型の作成ができる。		
12回	課題2(複合用途) ⑤	グループ内で発表を行い、新たなアイデアを見つけ出すことができる。		
13回	都市の構成	都市施設の骨格(構造)を理解できる。		
14回	課題1、2のまとめ	夏休み中の作業をまとめ、作品を提出。発表のシナリオを作ることができる。		
15回	発表会	模型とプレゼンシートを有効に使い、プランの魅力を伝えることができる。		